

下水中の新型コロナウイルス 検査サービス開始

日吉

日吉（滋賀県近江八幡市）は、下水中の新型コロナウイルス（コロナウイルス）検査サービスを開始した。2020年11月ごろから京都大学や高知大学等と調査研究を進めてきたもので、昨年7月には「滋賀の新しい産業づくりチャレンジ計画認定事業」の認定を受け、支援制度「滋賀県コロナ対応モノづくり研究開発補助金」を活用して検査方法を確立した。

同社が行うサービスは、従来に比べ10倍相当高感度で分析時間が短縮可能な「Direct Capture法」(フ

ロメガ社開発)で、納期

は2営業日。価格は1検体当たり5万円（目的・納期・数量などによって異なるため要相談）。

同社では、施設利用者の感染者の有無や施設内の感染傾向などが把握でき、それを踏まえてPCR検査の実施や感染対策の強化など状況に応じた適切な対応が行えるとして、下水サーベイランスによる定期検査を推奨。高齢者施設などを中心に、同サービスを展開していく。また下水疫学分野における国、自治体への協力体制を構築することも、下水疫学調査とヒト検査を組み合わせたモニタリングサービスの提供を目指す。